

ふれあいと思いやりのあるまち

おやま

こころとこころで向き合っていますか!

身近なところから考えてみよう



子どものいじめなどをなくすために、
大人の会議が行われているのをご存じかな？
これは、6月の『小山市いじめ等防止市民会議』の様子じゃ。
会場全体が盛り上がってるのう！
「相手を尊重すること」を学んでおるのじゃ。
子どものために大人もがんばってるぞ！



じんけん博士

小 山 市
小 山 市 教 育 委 員 会

これは、児童虐待防止の象徴、おやま生まれのオレンジリボンじゃ。小山市の小・中学校では、いじめ防止を表すシンボルにもなっているのじゃ。



いじめゼロ子どもサミット

いじめゼロ子どもサミットは、平成25年度から実施しています。小山市全小・中学校の代表が参加し、いじめのない学校にするために自分たちが取り組むことについて真剣に話し合いました。



いじめのない笑顔あふれる学校をめざして

平成27年度 テーマ
「各学校でのいじめゼロに向けたグッドな取組を紹介しよう」
 (H27・5・25 小山市立文化センター小ホールにて)

学校規模ごとに5つのグループになって、各学校のいじめをなくすための取組を紹介し合いました。さらに、自分の学校でやってみようと思った取組を持ち帰りました。

「オアシスサ運動」(「おはよう・ありがとう・しつれいします・すみません・さようなら」のあいさつを進んで)を続けよう。

「いいところ見つけ会社」などユニークな取組が多いなあ。

MVP(思いやりのある行動ができた人)を発表して思いやりの輪を広げたい。

「あったか言葉」や「ふわふわ言葉」(相手を思いやる温かい気持ちを伝える言葉)をつかって会話しよう。

失敗しても「ドンマイ」と声をかけ合おう。

生活ノート(毎日の振り返りなどを書くノート)に自分の思いを書くことができるので利用したい。

みんながいじめゼロ宣言を暗記して、真剣に取り組んでいるところがいい。

学級で友だちがやっていた親切を「親切の花カード」に書いて教室に掲示したい。

平成28年度 テーマ

「いじめを見つけたとき(いじめかなと思ったとき)、傍観者にならないために」
 (H28・5・31 小山市立文化センター小ホールにて)

いじめは、いじめられている子(被害者)といじめている子(加害者)だけの問題ではありません。その周りには、いじめを見ている人がいます。傍観者(周りで黙って見ていたり、見て見ぬふりをしたりする人)にならずに、いじめをなくすために一人ひとりができること、また、学級・学校全体でできることについて話し合いました。

助けるために勇気をもつ。いじめられている人に、「いっしょにがんばろう。」と味方がいることを伝える。

「いじめゼロ委員会」をつくらせて学級・学校全体でいじめについて考える機会をつくる。

いじめだと思ったらそのままにせず、誰か(先生や親、友だち)に相談したり、「きいてきてポスト」で知らせたりする。

家族に、学校のことをたくさん話すようにする。

「いじめかな?」と思ったら、いじめられていた子に話を聴き、先生に報告する。先生には、「自分の名前を出さないで。」と言う。

いじめだと気付いていない人に、「それってやってはいけないことじゃないかな。」と声をかけて気付かせる。助けることができる仲間を増やしたい。

周りの人と一緒に「やめなよ」と言う。一人で言うよりみんなで言った方がいじめていた人をやめさせることができると思うから。

わたしの学校では、生活委員会を中心に、一人ひとりが感じたHappy(ハッピー)になったことを葉っぱの形をしたカードに書き、昇降口に大きく掲示された木の枝に貼っていました。その葉はだんだん広がっていき、それとともに陰口がなくなり、友だちに対して思いやりのある行動が増えてきました。学校はわたしたち一人ひとりにとって安心して楽しく過ごせる場であればならないと思います。
 (平成28年度 実行委員長あいさつより)

それぞれの学校でグッドな取組が続いておるんじゃないかなあ。いじめがなくなることを祈っておるぞ!



第38回人権講演会から

講師 紺野 美沙子氏 (俳優)



平成28年8月23日(火)

於/小山市立文化センター

“今、私たちにできること
～自分を見つめて、世界を見つめる～”

小山市に来るのは3回目です。18年前、1998年から国連開発計画UNDP親善大使の役割を担って来ました。親善大使も女優も同じだと思っております。人の気持ちに寄り添う、人の気持ちを思いやるということがとても大切なことだと思っています。今月、8月の初めにUNDPの活動で親善大使としてアフリカのケニアを訪問しました。(映像で活動の様子を紹介) 帰国する前の日、ナイロビの国連事務所を訪れたとき、広島と長崎の原爆の慰霊セレモニーが行われ、遠く離れたところで祈りをささげてくださいながらとても嬉しかったです。悲しい記憶を分かち合う、伝えていくことは大切なことだと改めて感じました。国連開発計画は、ユネスコ、ユニセフ、国連難民高等弁務官事務所などと同じ国連機関の一つで、170の国で活動しています。世界では約73億人のうち約8億人が貧しい生活を強いられています。途上国が、国際機関やNGO等の支援を受けずに一つの国として自立するまでの様々な援助を行っているのが国連開発計画です。総合的な援助を行っており、法律、憲法、道路や学校を造るなど多岐にわたっています。UNDPが最も大切にしていることは『人間開発に基づいた援助』です。人間の尊厳、人間は生まれながらにしてそれぞれが独自の個性、感性、能力をもって、例外なく全ての人がかげがえのない存在です。全ての人と同じように大切な存在として守られなければならないという考えです。親善大使は11名が任命されていて、それぞれの立場で国際協力の大切さ、人権が守られることの大切さを訴えています。それぞれの立場で出来ることを続けていくことが大切だと思っています。会場にいる方も皆さんの置かれた場所でできること、皆さんらしくできることを継続していただきたいと思います。・・・UNDPが行っている援助の現状視察で訪れるときに心がけているのは、見たこと感じたことを素直に自分の言葉で分かりやすく伝えていこうということです。カンボジアは2回訪問しました。親善大使になって初めて訪れたところなので、とても印象に残っています。たまたま経済的に貧しい国や地域に生まれて、貧しさゆえに小学校にさえ行かない子どもたちの様子を目の当たりにしました。湖の船の上で生活をしています。小学校が湖の中に建っていました。小学6年生に「欲しいものは何？」と聞いたら、学校に通うための小さな船が欲しいと言っていました。他にも、生きて行くために一日に何度も水を汲みに行かなければならない、兄弟が多く面倒を見なければならぬ、学校が近くにない、治安が悪くて通学ができない、学校はあるが教えてくれる先生がいない、宗教上女子は教育を受けなくてもよいなどの理由で、初等教育さえ受けられないのです。国際協力や人権問題は敷居が高く難しいかもしれませんが、被災地支援も、電車でお年寄りに席を譲ることも根っこは一緒。思いやりの気持ち、その痛みをわかってもらう寄り添う気持ちは大切だと思っています。

(人権講演会講話内容からリーフレット用にまとめたものです)

2016(平成28)年12月発行



小山市役所人権推進課
☎0285-22-9292

小山市教育委員会生涯学習課
☎0285-22-9663

人権相談

毎月第2金曜日(予約不要) 午前10時～12時、
午後1時～3時

小山市役所内 (場所は人権推進課にお問い合わせください)

ホームページ「小山人権の扉」

URL <http://www.oyama-tcg.ed.jp/~jinken/>